

新たな世界の工場として注目を集めるインドネシア

世界中に約4500店舗を構える靴小売りチェーン「ペイレス・シューソース」を展開する靴専門店大手コレクティブ・ブランドは、生産拠点の一部を中国からインドネシアへ移転すると発表しました。現在中国での靴生産量は同グループ全体の80%を占めていますが、2年以内に70%に引き下げ、さらに60%まで減らしていく計画です。この他にもトヨタグループ、家庭用品大手ユニリーバ、食品大手ネスレなどの大手企業が続々とインドネシアに進出しています。賃上げを求めるストライキが相次ぐ「世界の工場・中国」を離れる外国企業にとって、廉価で質の高い労働力を有するインドネシアは有力な生産拠点の移転先となりつつあります。

海外現地法人を3社以上有する日本企業を調査対象としたアンケート「2010年度海外直接投資（国際協力銀行調べ）」によると、有望事業展開先国としてインドネシアは第6位につけています。インドネシアをあげている理由としては、経済の成長性、安価な労働力などがあります。治安・社会情勢を不安視する声もありますが、2期目に入ったユドヨノ政権下で政情は安定に向かっており、今後も新たな生産拠点の移転先としてインドネシアへの注目が高まっていくことでしょう。

中期的(今後3年程度)
有望事業展開先国・地域

2010	2009	国・地域名
1位	—	1位 中国
2位	—	2位 インド
3位	—	3位 ベトナム
4位	—	4位 タイ
5位	↑	6位 ブラジル
6位	↑	8位 インドネシア
7位	↓	5位 ロシア
8位	↓	7位 米国
9位	—	9位 韓国
10位	—	10位 マレーシア
10位	↑	11位 台湾

企業が考えるインドネシアの魅力と課題

理由 (回答社数計:105社)	社数	比率
1. 現地マーケットの今後の成長性	75	71.4%
2. 安価な労働力	54	51.4%
3. 現地マーケットの現状規模	26	24.8%
4. 組み立てメーカーへの供給拠点として	22	21.0%
5. 第三国輸出拠点として	14	13.3%
5. 現地マーケットの収益性	14	13.3%

課題 (回答社数計:98社)	社数	比率
1. 治安・社会情勢が不安	28	28.6%
2. 他社との厳しい競争	25	25.5%
3. 法制的運用が不透明	22	22.4%
4. 管理職クラスの人材確保が困難	18	18.4%
4. 労働コストの上昇	18	18.4%

(出所) 国際協力銀行

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社において入手した信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、(I)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、(II)弊社の書面による許可なく再配布することを禁じます。 <審査番号: TK11010122>
© 2011 Goldman Sachs. All rights reserved.